

松井一明氏による小銅鐸分類型式の概要

「1総括」シート中の「松井分類」欄には、松井一明氏による小銅鐸分類型式を記載している。

松井一明氏は、

- ① 銅鐸を忠実に模倣しようとするもの。
 - ② 銅鐸の模倣から逸脱し一つの型式を形成するもの。
 - ③ 銅鐸の模倣とは関係のないもの。
- の3点に着目して、小銅鐸を下記の1類～6類に大きく分類した。

この各大分類の中を、A、B、C に細分化している。

さらに、

- a： 上から見た形態が扁平なもの。
b： 上から見た形態が円に近いもの。
という分類をおこなっている。

- 1類： 朝鮮式系小銅鐸。1A→1B→1C と変化したものとする。
- 2類： 扁平な鈕と緒を持つ。小型の銅鐸あるいは銅鐸型銅製品と分類されるもの。外縁付鈕式ないし扁平鈕式の小型銅鐸といえるもの。
- 3類： 扁平な鈕を持つが、緒はない。銅鐸からの模倣を脱却した小銅鐸。
- 4類： 菱環鈕で無文。緒がない。銅鐸からの影響は型持孔以外は全く見られない形態の小銅鐸。
- 5類： 鐸身の形態は4類小銅鐸であるが、鈕が省略されているもの。
- 6類： 近畿式か三遠式の突線鈕Ⅱ式以降の銅鐸の模倣品と考えられるもの。関東地域に分布が限定されている。

【参考文献】

松井一明「伊場遺跡出土の小銅鐸にかんするコメント」
『浜松市博物館報』第17号 浜松市博物館 2005. 3.